

秋田大学 学生会員 ○福眞聖仁
秋田大学大学院 正 会 員 鈴木 雄
秋田大学大学院 正 会 員 日野 智
秋田大学大学院 正 会 員 木村一裕

1. はじめに

近年、若者の価値観の変化や社会的構造の変化などにより、個人と地域社会とのつながりが弱くなっている。無縁社会が形成され、孤独死や日常や緊急時における助け合いを不可能にするなどの問題が懸念される。さらに、若者の社会的参加行動の減少などにより、今以上に各世代間、そして人と人とのつながりが希薄になることも想定される。

本研究では、最も基本的な住民間の組織といえる町内会とその活動に着目した。そして、近隣住民間のつながりを形成する上での町内会や町内会活動の影響や有効性を明らかにすることを目的とした。

2. 町内会組織に対する意識調査

本研究では、秋田市内の 4 つの町内会に所属する住民を対象に意識調査を実施した(表 1)。各町内会に 200 世帯、計 800 世帯に調査票を配布し、計 285 世帯(世帯回収率 35.6%)から 385 票を回収した。

表 1 調査対象とした町内会の特徴	
町内会	特徴
土崎	昔から行われている祭り(曳山行事)が長期間廃れることなく続いている。回答者は60代・70歳以上が大半を占める。
茨島	自主防犯ボランティア活動に力を入れている。町内の子供たちが高齢者のためにイベントを開催している。回答者は60代が1番多い。
御所野	ベッドタウンであり連合町内会を形成している。地域のパトロールや環境美化活動に力を入れている。回答者は40代が1番多い。
児桜新生	町内会活動が活発に行われている。特に防犯防災活動と環境美化活動に力を入れている。回答者は60代・70歳以上が大半を占める。

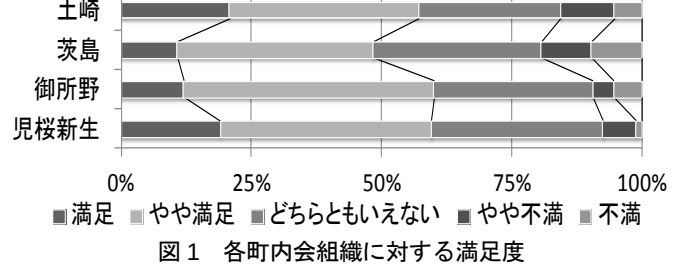
3. 町内会組織に対する満足度分析

(1) 町内会組織の必要性和満足度

意識調査では、町内会組織の必要性について質問している。74.0%の被験者が「必要である」と回答している。年代別にみると、年代が高くなるにつれて必要とする被験者の割合が高い。

町内会に対する総合満足度と「町内会活動の内容」「活動頻度」「活動への参加者数」「町内の設備」「町内会情報の伝達」に対する満足度についても質問している。どの町内会においても満足と感じている被験者の割合が高くなった(図 1)。しかし、町内会組織に不満を感じている被験者は町

内会組織の必要性を感じていない。このような住民の存在は大きな課題といえる。また、活動内容や活動頻度、設備に対する満足度は高い傾向にある。一方、活動への参加者数に対する満足度は低い傾向にある。



(2) 数量化理論Ⅱ類による満足度分析

町内会組織の満足度に対して影響を及ぼす要因を明らかにするため、数量化理論Ⅱ類による分析を行った。外的基準を総合満足度、アイテムを「活動内容」など個別項目の満足度とした。レンジの値から、町内会毎に満足度に影響する要因は異なることがわかる(表 2)。しかし、その中で「活動頻度」が強く影響している町内会が多い。

表 2 町内会組織の満足度への影響要因(レンジ値)				
要因	土崎	茨島	御所野	児桜新生
町内会活動の内容	0.78	0.16	0.83	0.38
町内会活動の頻度	0.02	0.97	0.79	0.93
活動への参加者数	0.41	0.25	0.18	0.50
町内の設備	0.58	0.96	0.93	0.70
町内会の情報伝達	0.66	0.68	0.29	1.17

4. 町内会組織に対する住民意識

(1) 町内会組織による人とのつながり

調査では町内会活動を通して知人の増加について質問している。活動を通して知人を増やすことができた 61.9%の被験者が回答している。特に、町内会が必要である、居住地域を良くしたいと感じている被験者の 8 割以上が知人を増やすことができたとしている(図 2)。調査では、町内会活動を通して人とつながることへの期待感についても質問している。この期待感と町内会活動への参加意識との関係をみると、積極的な参加意向のある被験者は人とつながることへの期待感が高く、参加意向の低下とともに期待感も

低くなっている(図 3)。つまり積極的に活動に参加し、町内会の向上や人とつながることを指向していると考えられる。

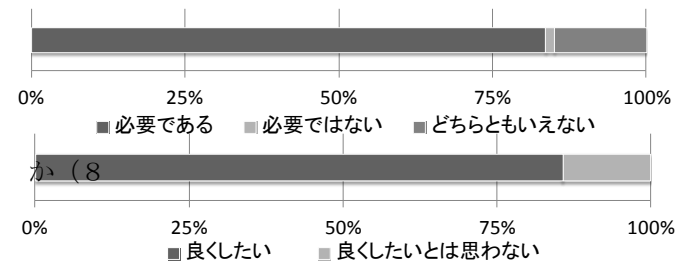


図 2 町内会活動を通して知人が増加した被験者の町内会活動の必要性(上)と居住地の向上意識(下)

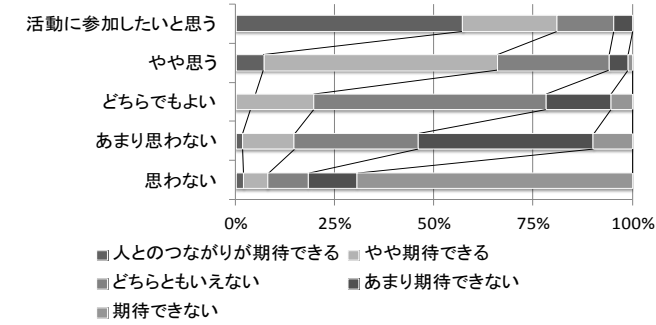


図 3 町内会活動への参加意向と人とつながる期待感

(2) 町内会における人との関係

本研究では人との信頼関係に着目した分析を行った。人との信頼関係を把握するため、1)おすそわけをする、2)日常生活で困った時に助け合うことがある、3)活動に参加できない場合の代わりを頼む、4)悩みや私ごとの相談にのる、5)町内における危険箇所に関する情報を共有する、6)長期的に家を空ける場合の用心を頼む、という行動の有無を質問した。1)と 2)と 3)は、7 割近くの被験者が町内会を通じた知人との行動であった。また、町内会活動を通して人とつながる期待感が高くなるにつれて各行動をとる被験者の割合が高い(表 3)。

表 3 人とつながる期待感と人との信頼関係 (%)

	1)	2)	3)	4)	5)	6)
期待できる	12.6	13.0	16.9	16.4	13.7	15.0
やや期待できる	29.6	33.8	36.2	40.2	31.1	29.4
どちらともいえない	33.6	29.0	28.5	27.9	35.0	30.0
あまり期待できない	11.9	13.5	12.3	10.7	13.1	14.4
期待できない	12.3	10.6	6.2	4.9	7.1	11.1

(3) 町内会活動への参加と効果認識

各町内会に 4 種類の活動(環境美化活動と交流会、2 種類の町内会独自の活動)に関し、活動への参加と活動効果の認識に対する質問をしている。町内会活動に参加している被験者では、活動を通して以前よりも親しくなった知人がいると回答した割合が高い。つまり、町内会活動への参加は人とつながる機会であり、より親しくなる機会でもある。町内会活動で知人の増加と活動の効果認識の関係をみると、町内会独自の活動よりも環境美化活動と交流会が知人の増加に寄与している。また、町内会独自の活動は特定の年齢層にのみ認知されており、効果認識も低い傾向にある(表 4)。

表 4 町内会活動の効果認識 (%)

町内会活動	児桜新生	御所野	茨島	土崎
環境美化活動	62.3	67.5	48.8	66.7
交流会	60.7	82.1	52.5	71.9
独自の活動A	54.4	47.2	31.3	71.0
独自の活動B	38.6	27.8	35.4	35.5

以上の分析から、人とつながることへの期待感について、共分散構造分析を適用した(図 4)。期待感は「活動への参加」から「活動への効果認識」と関係しており、町内会組織への満足度とも間接的かつ直接的に関係するという結果が得られた。すなわち、人とつながることへの期待感が良好な町内会組織・活動に強く関係している。

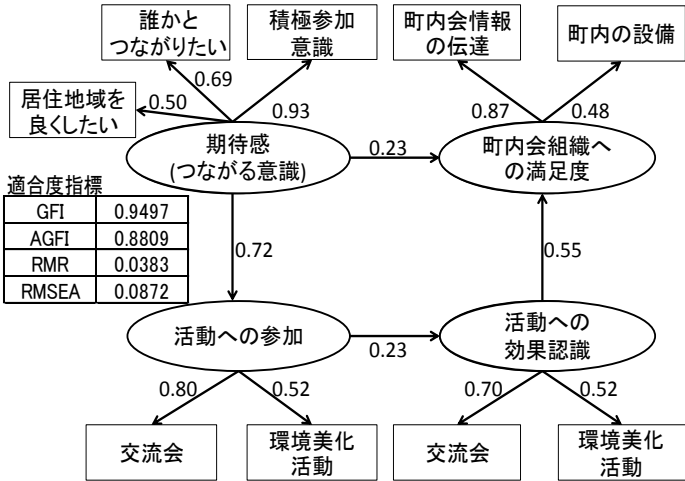


図 4 つながりを基準としたパス図

また、活動に参加していないと回答した被験者の主な不参加理由は、時間が合わない、身体的に参加できない、関心がないであった。しかし、身体的に参加できないとした被験者は、活動を通して人とつながりたいという意識が高い。そのため活動に参加していない被験者は近所の方への挨拶、回覧板を読むことで町内会や人とのつながり形成に取り組んでいると考えられる(図 5)。

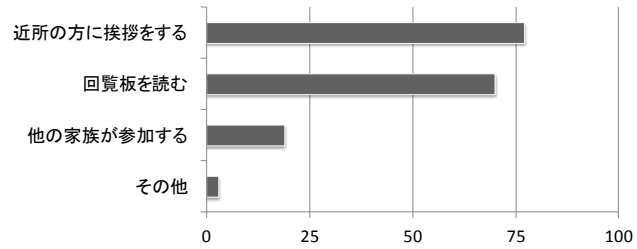


図 5 身体的に参加できない被験者が行っている取組(複数回答)

5. おわりに

本研究における分析の結果、町内会活動が近隣住民のつながりを形成することに有効であることが明らかになった。特に、積極的に活動に参加し、町内会を向上させる意識を抱くことがつながりを形成することに有効である。しかし、やむを得ず町内会活動に参加することができない人も存在していることが明らかとなった。今後、高齢化の進展に伴い身体的な理由から参加が困難となる人が増えることも予想される。そのような状況の対応が重要な課題といえる。